昭和天皇記念館

天皇皇后両陛下ご来館

開館1周年を前に

来合わせた来館者は感激

天皇皇后両陛下は六日午前十一時過ぎ、昭和天皇記念館にご来館になり、昭和天皇・香淳皇后のお写真やご遺品等をご覧になって、激動の昭和時代を振り返られ、同時にご一緒の日々を懐かしく思いだされたご様子でした。昨年十一月二十七日の開館後、一周年を前にしてのご来館に、激しい雨の中を来合せた一般来館者は幸運を喜び、さらにお声をかけていただいて感激でした。＝2、3面に写真

藤村理事長（左から２人目）のお出迎えを受けられる天皇皇后両陛下

両陛下は午前十時四十分ごろ、国営昭和記念公園事務所(東京都立川市)にご到着、公園を管轄する国土交通省幹部並びに昭和天皇記念館を運営するマイクロバスに乗り換え迎えを受けられたあと、記念館口の高野槙（矢印）

に向けて尽力された先人たちにもきっと喜んでいただけたものと存じます。

先月六日、皇室においては秋篠宮家に親王ご誕生のご慶事がありました。両陛下にとって四人目の皇孫殿下、とりわけ四十一年ぶりの親王ご誕生というおめでたいニュースにそのお慶びはいかばかりかと拝察いたします。心からお祝い申しあげたいと存じます。

その昔、昭和天皇ご誕生の折、昭憲皇太后が命名の儀もすまない時期に早々とご対面にお出ましになるということがあり、その感激を詠まれた大正天皇の漢詩が記念館内に掲げられております。秋篠宮殿下のご心境もまさしくそのとおりかと拝察いたします。また、当記念館口の両側に悠仁親王さまのお印である「高野槙」が植えられております。昭和天皇ご在位五十年を記念して造成された皇室にご縁の深い公園であるとはいえ、この偶然に驚き、かつ、喜んでおります。開館以来の念願であった両陛下のお出ましをいただけた記念館にとっても重ねての喜びであります。ぜひとも大勢の方にご来館いただいてこの喜び、感動を分かち合っていただきたいと思います。

行幸啓を仰いで

昭和聖徳記念財団会長　綿貫民輔

その記念館に両陛下をお迎えすることができましたことは、記念館にとって無上の喜びであります。当記念館の存在があらためて国民に注目されることにもなり、ひとりでも多くの来館者を迎えることができますことは、まことに心強い限りであります。皇室に対する理解と尊崇の念が一段と深まり、皇室と国民とのつながりが一層強固なものとなることと確信いたしております。

大槻文平氏をはじめ歴代会長や記念館の開館

わが国の戦後の奇跡的な復興をあげぼのすぎの成長になぞらえて「昭和天皇とあけぼのすぎ」というテーマで開催しました開館記念の特別展に続き、この九月十二日から「昭和の皇后『良子さま』～お絵とピアノ～」と題しまして昭和天皇を支えてこられた香淳皇后の温かいお人柄が偲ばれる作品の数々とご愛用のピアノなどを展示することが可能となりました。

まで国民が拝見することができなかった皇室のありのままのお姿を来館者が拝見する機会をあたえられたことはきわめて意義深いことと存じます。

おかげをもちまして、

（題字・大槻文平初代会長）
（毎月１回　10日発行）
発　行　所
㈶昭和聖徳記念財団
〒190－0012
東京都立川市曙町2-34-13
オリンピック第３ビル
電話（042)522－2451
FAX（042)522－7747
http://www.f-showa.or.jp

昭和天皇御製

すこやかに空の旅より日のみこの
おり立つ姿テレビにて見し

昭和二十八年

香淳皇后御歌

日の丸を花もて作りしシャルロワの
食堂の飾に心ひかれぬ

昭和四十六年

ひと口メモ

御製は、昭和天皇の御名代としてエリザベス女王の戴冠式に参列され10月にご帰国になられた皇太子殿下（今上陛下）を詠まれたものです。

この刊行物は、宝くじの普及宣伝事業として助成を受けて作成されたものです。